

ルクセンブルク月報【2022年5月】

在ルクセンブルク日本国大使館

2022年5月の当地公開情報の概要は以下のとおり。

1 内政

●ウェルフリング環境・気候・持続可能な開発大臣の就任に伴う内閣改造（2日付政府コミュニケ）

2日朝、ウェルフリング氏は、新閣僚として宣誓を行い、環境・気候・持続可能な開発大臣に任命された。

●デレス大臣の民主党党首への立候補（11日付RTL及びコティディアン紙）

11日、デレス中小企業大臣兼観光大臣（民主党）は、6月12日に開催される民主党大会において同党の党首に立候補することを発表した。コティディアン紙によれば、デレス大臣の立候補表明により、同大臣が党首に選出されることはほぼ間違いない。そのため、彼は2023年の選挙に向けて民主党の選挙準備を行うこととなる。

●2023年国政選挙：ウェルフリング環境・気候・持続可能な開発大臣出馬表明（12日付RTL）

12日、RTLのインタビューにおいて、ウェルフリング環境大臣が、2023年の国政選挙への南部選挙区からの出馬を表明した。

●2023年国政選挙：フランク・エンゲル現フォーカス党広報担当の首相候補任命（16日付デラーノ紙）

14日、マルク・ルペール党首が率いるフォーカス党の初の全国大会において、前キリスト教社会党（CSV）党首であったフランク・エンゲル広報担当が、2023年の国政選挙（比例代表制）における同党の首相候補（top candidate）（当館注：2つの意味があり、①選挙の結果、所属政党が最も多くの国民議会議員を擁する与党となった場合に、慣習的にルクセンブルク大公から政権樹立を委ねられる組閣者（formateur）となり、首相として閣僚を指名する者を指す場合と、②4つの比例代表選挙区ごとに作成される各政党の比例代表リストのいずれかにおいて第1位となる者を指す場合があり、今回は①首相候補を指す。）に選ばれた。

●2023年国政選挙：ベッテル首相の出馬表明等（19日付デラーノ紙）

19日、ベッテル首相はエッセンシャル紙のインタビューに応じ、2023年国政選挙に

立候補するつもりであると語った。また「民主党が自分を首相候補とするつもりなら、断らない」と述べ、首相としての任期延長に関心を示した。

2 外政

●バウシュ防衛大臣によるラトビア及びリトアニア訪問（4日及び5日付政府コミュニケ）

バウシュ副首相は、テュル当国陸軍参謀総長とともに、2日から4日にかけてラトビアを訪問後、4日から5日にかけてリトアニアを訪問した。ラトビアでは、ラトビア空軍の主要基地を訪問し、ラトビア国防省での実務会議等のプログラムに参加し、リトアニア訪問では、アヌシャウスカス・リトアニア国防大臣と会談した。

●ベッテル首相によるキプロス訪問（6日付政府コミュニケ）

5日、ベッテル首相がキプロスを公式訪問し、アナスタシアディアス・キプロス大統領の歓迎を受け、大統領府において二人だけの会談及び実務会談を行った。両首脳は、1974年以来、国を二分している「キプロス問題」について議論した。

●アンリ大公殿下及びマリア・テレザ同妃殿下のポルトガル国賓訪問（13日付政府コミュニケ並びに11日及び12日付大公宮府コミュニケ）

5月11日から12日にかけて、アンリ大公同妃両殿下は、ソウザ・ポルトガル大統領の招へいにより、2010年9月の公式訪問以来2度目となるポルトガルへの国賓訪問を実施した。アセルボーン外相、カーエン家族・統合相、ファイヨ経済相、バックス財相が同行した。

●アセルボーン外相のNATO非公式外相会合出席（15日及び18日付政府コミュニケ）

14日及び15日、アセルボーン外相がベルリンで開催されたNATO非公式外相会合に参加した。ドイツの主導により、NATOの歴史上初めてNATO加盟国の外相が非公式な形式で会合を行った。アセルボーン外相は、もしスウェーデンとフィンランドの2カ国がNATO加盟を申請することになれば、当国は全面的に支援することを確認した。

●パブリクス・ラトビア副首相兼国防相の当国訪問（18日付政府コミュニケ）

18日、バウシュ副首相の招待で、パブリクス・ラトビア副首相兼防衛相が当国を実務訪問し、実務会談において、両防衛相は、マドリッドにおけるNATO首脳会議に向けて、二国間防衛関係を確認し、ラトビア代表团は、サイバー防衛及び宇宙に関する概要説明を受けた。

●アンリ大公殿下のアラブ首長国連邦弔問（16日付大公宮府コミュニケ）

16日、アンリ大公殿下は、アブダビを訪れ、13日に亡くなったシェイク・ハリーファ・

ビン・ザイド・アルナヒヤーン・アラブ首長国連邦前大統領に敬意を表すとともに、シェイク・モハメド・ビン・ザイド・アルナヒヤーン新大統領を通じて、当国を代表して、亡くなった大統領の家族と同国の人々に哀悼の意を表明した。当国とUAEの関係は古く、1980年から外交関係があり、2011年に大使館を設立した。

●アセルボーン外相のニューヨーク国連訪問（20日付政府コミュニケ）

19日及び20日、アセルボーン外相は、ニューヨークの国連を実務訪問し、第1回国際移住レビューフォーラムに参加した。加えて、同外相は、ブリンケン米務長官が議長を務める国連安全保障理事会の公開討論会で、食料安全保障の問題についての議論の重要性を強調し、食料危機を引き起こしているのは制裁ではなく、ロシアの戦争である旨主張した。

●ベッテル首相の世界経済フォーラム出席（25日付政府コミュニケ）

ベッテル首相は、スイスのダボスで開催された世界経済フォーラム（#WEF22）に、7回目の参加を果たし、多くの政治・経済界の要人や市民社会の代表者と会談して、現在の政治・経済・社会問題について議論を行った。また、同首相は、ダボス会議における多くの非公式な交流とは別に、約20の二者会談を行い、ガブリリツァ・モルドバ首相及びアバズビッチモンテネグロ首相との会談では、両国の欧州への希望について議論した。

●アセルボーン外相によるハンガリーへの批判（27日付デラーノ紙）

アセルボーン外相は、当地報道機関RTLとのインタビューにおいて、EU首脳会議で禁輸措置に関する議論を阻止しようとするビクトル・オルバン・ハンガリー首相について「ハンガリーは復讐しようとしている」と語った。欧州委員会は4月、新たな法治メカニズムの一環として、ハンガリーに対するEU資金の支出を停止する手続きを開始していた。

3 経済・金融

○経済

●2025年大阪・関西万博（ルクセンブルクのパビリオンに関する政府発表）（4日付政府コミュニケ及びペーパージャム誌）

4日、ファイヨ経済大臣及びフリーデン商工会議所会長は、記者会見において、大阪・関西万博への当国の25回目の参加及び国連のSDGsに沿った持続可能で革新的なパビリオンについて報告した。6月上旬に審査委員会が開かれ、採択プロジェクトが決定される。

●2022年1月1日時点の人口統計（5日付国立統計経済研究所（STATEC）コミュニケ）

ルクセンブルクの人口は、2021年の間に10,667人増加し、2022年1月1日時点で645,397人となったことが発表された。

●**新「環境ボーナス・プログラム」プログラムの発表（10日付政府コミュニケ）**

10日、ウェルフリング環境・気候・持続可能な開発大臣、トーマス・エネルギー大臣、コックス住宅大臣が、気候変動に対応し、エコロジー、エネルギー及び社会的転換を加速させる新しい助成プログラム「環境ボーナス (Klimabonus)」を発表した。また「環境機関 (Klima Agence)」の新設ウェブサイトも公開された。

●**25億ユーロの債券発行（18日付政府コミュニケ）**

当国は、マクロ経済状況の悪化及び3月31日の三者会合による協定に基づく措置を背景に、流動性バッファを確保するため、25億ユーロの債券発行を成功裏に終えた。今回の債券発行を踏まえた公的債務残高は約195億ユーロで、対GDP比は25.2%となり、政府計画で定められた30%を大きく下回っている。